

選ばれる病院をめざして —地域との連携—

国家公務員共済組合連合会 名城病院診療部長

岩間 芳生

超高齢社会を迎え慢性疾患をいくつもかかえ介護を必要とする方が多くなっています。その中で、入院のきっかけとなった急性の病気は一段落しても、しばらくリハビリが必要な場合や体力が落ちてしまったり認知症が進行してすぐには退院できない場合や自宅での生活が困難になってしまう場合もあります。このように一人一人の患者さんの病状が様々であり、また医療が高度化・専門化していることも関係して、一つの病院だけでは治療を完結することが難しくなってきました。そのために、各病院はその機能・役割を明確にし、お互いに連携して役割分担をおこ

なうことにより、病院完結型から地域完結型すなわち地域包括ケアシステムを構築していくことが求められています。

「親しまれ、信頼され、選ばれる病院」をめざすことが当院の理念です。そのためには、私たち職員一人一人が患者さんに心のこもった対応をすることや、安心・安全・高度な技術に支えられた質の高い医療をおこなうことはもちろん、当院が果たす役割・機能を明確にし「地域で必要とされる医療」をおこない「地域から選ばれる病院」をめざすことが求められています。

当院は、従来より急性期病院として名古屋市の二次救急医療の一

翼をにない、地域の医療機関との病診・病病連携にも力を入れてきております。昨年には地域包括ケア病棟を開設し、愛知県から地域医療支援病院として認可され、また名古屋市医師会が推進されている在宅医療・介護連携支援センター(中区)が本年4月に当院に設置されました。さらに地域への情報発信をおこない顔の見える連携をひろげるために、一般の方を対象とした市民公開講座、診療所の先生方との症例検討会、地域の看護師・介護職の方々など多職種との研修会を頻繁に開催しています。

「生き残るのは最も強いものでもなければ、最も知的なものでもない。変化に最も適応できるものである」

名城病院は今後とも地域の皆様から選ばれる病院をめざして進化してまいりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



入場無料／事前申込不要

市民公開講座のお知らせ

名城病院では市民公開講座を毎月定期的に行っています。入場無料ですので、お気軽にご参加ください。

会場

名城病院
地下1階
大会議室

詳細は、ホームページでも確認いただけます

12/5 月 14:00～14:45

消化器内科

「大腸ポリープについて」

消化器内科医師 小澤 喬

12/14 水 14:00～14:45

感染制御管理部

「インフルエンザと冬の感染症について」

感染管理認定看護師 藤岡江里

小
児
科

予防接種について

こども、特に小学校入学前までのお子さんは、病気に対する抵抗力が未発達なため、さまざまな感染症にかかります。感染していくことで免疫をつけながら成長していくのですが、かぜのように軽いものだけではありません。中には、確実な治療法がなくて、深刻な合併症や後遺症をおこしたり、命を落としたりする危険がある病気もあります。そうした感染症は、かからないようにまず予防することが大切です。

そのために、予防接種を行います。毒性を弱めた病原体(ウイルスや細菌)や毒素を、前もって投与しておくことにより、その

ワクチンで防げる病気	麻疹	ロタウイルス胃腸炎
	風疹	ヒブ感染症
	流行性耳下腺炎	肺炎球菌感染症
	水痘	ジフテリア
	日本脳炎	破傷風
	百日咳	ポリオ
	インフルエンザ	結核
	A型肝炎	ヒトパピローマウイルス(子宮頸がん)
	B型肝炎	

病気に罹りにくくすることを予防接種といい、投与するものをワクチンといいます。

最近新しいワクチンが増えています。まず、ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンです。ともに、小さいお子さんが罹ると髄膜炎や敗血症などの重症な感染症を起こすことを防ぐワクチンです。罹る確率は高くはありませんが、後遺症になる可能性もある感染症です。さらに、ロタウイルスによる胃腸炎では、乳幼児が感染すると嘔吐、下痢、発熱をきた

し、脱水症になる危険性があります。その他、痙攣、腎障害を起こすことがあります。この3種類のワクチンが行われるようになり、明らかに重症な感染症が減ってきています。

また、2016年10月からは1歳未満でB型肝炎ウイルスの予防接種が定期接種(無料)となりました。B型肝炎は肝炎、肝硬変、肝がんに行進する恐れがありますので、是非、接種してください。

小児科部長
小川 貴久

8
階
病
棟

8階病棟紹介

8階病棟は消化器外科、整形外科病棟です。消化器外科の手術としては胃癌、直腸癌、上行結腸癌、腹腔鏡下虫垂切除などを受け入れています。

消化器外科手術においては術後の早期離床は合併症予防や全身機能の回復に有効とされています。私達看護師は、医師と協力しながら術後一日目から座って、立って、歩けるようになるまで患者さんの状態に合わせながら進めています。中には手術の負担が大きいとか、体力、気力の回復が不十分な患者さんもみえます。そのような時は患者さんとコミュニケーションをと

りながら一日の目標を立て患者さんが納得されたうえで離床を進めていきます。また高齢で理解力、判断力、記憶力の低下等がある患者さんも多くみられます。離床のきっかけ作りは看護師であることを忘れず、常に患者さんの思いをしっかり受け止めて安心感を与えられるよう優しさや笑顔で頑張っています。

整形外科は7階に脊椎、脊髄センターがありますが、手術を必要とされている患者さんが多いため8階で脊椎の手術をされる方や腰椎圧迫骨折、化膿性脊



椎炎で安静目的での入院患者さんを受けています。安静を強いられている患者さんはストレスが溜まります。よく話を聞いたり食事介助や清潔援助に気を配るようにし、心地良いベッド上での療養生活が過ごせるように支援しています。

整形外科の患者さんは術後のリハビリがとても重要となってきます。病棟での歩行練習の介助や、退院後の生活指導も行っています。生活指導は家族の方にも説明し早期退院をめざし支援しています。

8階病棟では、患者さんから信頼されることを第一に考え毎日元気で明るく看護ケアを行っています。



8階病棟部長
平野 丸子

脳神経外科

脳神経外科部長

河合達巳

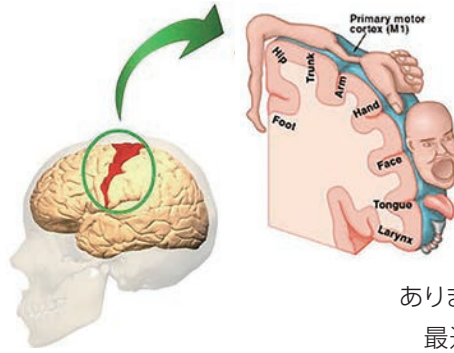
脳梗塞について

「脳梗塞の症状ってどうい
うものですか?」とよく質問を受
けます。

脳のどの部分が障害されるか
で生じる症状は様々ですが、1
番分かり易いのは半身麻痺で、
急に身体の半分が思うように動
かせなくなり生活が不自由な
なってしまいます。

「顔が歪んで呂律が回らなくな
り、箸が使えなくなって力の
入らない足の方へ倒れてしま
う」なんて症状なら誰だってすぐ
脳の病気だと思うでしょう。

ところが中には手だけがおかし
い、足だけに力が入らないと
いうことがあります。特に足だ
けの麻痺の場合は、「ちゃんと
しゃべれるし手も普段通りだか
らきっと普段痛めている腰のせ
いだろう」と思って脳の検査が



おろそかになってしまうことが
あります。

とりあえず頭のCTを撮って
はっきりした異常がなかったか
らやっぱり腰だなど決めつけて
しまわれた患者さんがいらっ
しゃいました。

脳梗塞の場合は足だけが調子
悪くなったと言われる患者さん
もじっくり診察するとやはり顔

や手にも異常を認める
ことが多いのですが、ま
れに足の運動を命令す
る部分の脳だけが障
害される場合があっ
て1度のCT検査だけ
では見分けられないこ
とがあります。

最近2名続けてそういった方
がみえました。

MRIでの精査やCTの再検査
で脳梗塞が原因と判明しまし
た。MRIの検査はCTより10倍
くらい時間がかかり小回りが利
かない検査ですが、当院では疑
わしきは緊急で撮影し、確認す
るようになっていますので、気
になる症状のある方は、すぐに
脳神経外科を受診して下さい。

F Face	A Arm	S Speech	T Time
顔	腕	言葉	すぐ受診
うまく笑顔が作 れますか?	腕を上げたまま キープ出来ます か?	短い文がいつも 通りしゃべれます か?	症状に気づいた らすぐ 119番

病診連携室

事務次長兼病診連携室長

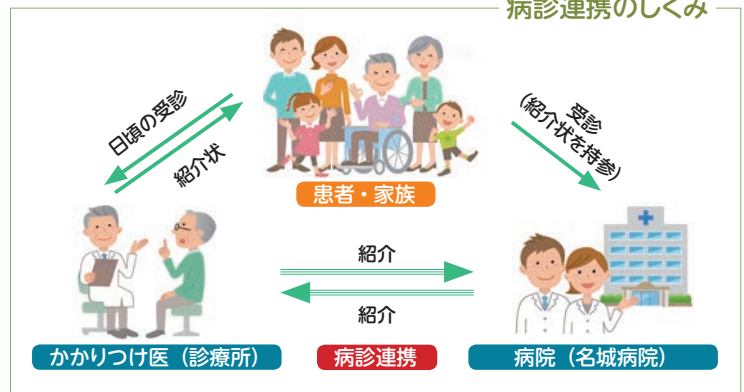
木村隆秀

病診連携室について

皆さんは病診連携室という
何をやっているところと思われ
ますか。

直接的に患者様と接すること
があまりありませんので、判り
にくいかと思いますが、具体的
には患者様がかかりつけのお医
者様から当院にご紹介され受診
されるときに、事前に患者様の
診察の予約をとったり、診察券
やカルテを用意したりして、患
者様が円滑に当院の診察を受け
られるよう、ご準備をしている
部署です。

病診連携の「病」は病院(名城
病院)、「診」は診療所(かかりつ
け医)のことで、病院と診療所が
患者様を中心に円滑に機能する
ための潤滑油のような役割を果



たしています。

以前より国は病気にかかった
際、まずは地域のかかりつけ医
が診察をし、かかりつけ医だけ
では診察が難しい場合、200床
以上の病院に診察をお願いす
る、かかりつけ医制度を推進し
ており、その推進を担う意味で、
病診連携室は設立されました
が、最近はこの超高齢化社会
に備え、患者様を在宅中心に地
域全体で見ていく、地域包括ケ

アという動きも加わり、病診連
携の役割も当初と大きく変わ
ろうとしています。

我々スタッフもその変化に付
いていくのは大変ですが、どん
な変化であれ、患者様第一に考
えていけば間違いはないと考え、
日々精進しております。院内の
何処かで病診連携という言葉
を見かけましたら、このことだ
なと思いついていただければ幸
いです。

患者さん



患者さんからうれしいお言葉をいただきました。

意見 手術にたずさわる先生方が前日にお話しをされます。手術室でお会いすると緊張が少しゆるんで患者のきもちに寄り添って下さるのが有り難いです。
一番えらい方は先生なのに手術後も病室を廻られ、疲れていらっしゃるのに何とお礼を申し上げていいか、ありがとうございます。
先生方、タフな体をおもちなんですね。優しさも倍以上、お世話になりました。
益々のご繁栄をお祈りしています。



私たちと一緒に働きませんか？

看護職員冬季病院説明会インターンシップ!!



ぜひ一度病院見学・インターンシップにご参加ください。

病院説明会・見学会 インターンシップ

2月22日(水)	2月24日(金)	
3月14日(火)	3月16日(木)	3月17日(金)

詳しくは ホームページ又は 052-201-5311 人事担当 鈴木まで

編集後記

近年、オックスフォード大学から「コンピューター（ロボット）に取って代わる未来の仕事」という研究結果が発表されました。これからの20年間で現在のアメリカの雇用の約半分がロボットに取って代わる可能性があるそうです。今回、約700の職業に順位が付けられました。ロボットに代替できない仕事の上位10は、1位：レクリエーションセラピスト、2位：メカニック・修理工、3位：緊急事態の管理監督者、4位：メンタルヘルスと薬物利用者サポート、5位：聴覚医療従事者、6位：作業療法士、7位：義肢装具士、8位：ヘルスケアソーシャルワーカー、9位：口腔外科医、10位：消防監督者でした。そして、内科医・外科医は15位、歯科医は19位でした。医療やヘルスケアに関する仕事はロボット化しにくいようです。私たちは、これにあぐらをかくことなく皆様のために一生懸命お仕事をしていきたいと思えます。(H・H)



<http://www.meijohosp.jp/>

名城病院診療等のご案内



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。

診療科目

内科（消化器内科／呼吸器内科／腎・糖尿病内科）、循環器センター（循環器科／胸部心臓血管外科）、小児科／小児循環器科、外科、整形外科（脊椎脊髄センター）、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、歯科口腔外科、神経内科

診療受付時間

新患 午前 8:30～11:30
再来 午前 8:00～11:30

休診日

土・日・祝日・年末年始(12/29～1/3)

面会時間

一般 午後 0:30～8:00
新生児 午後 0:30～8:00
(授乳時間をのぞく)
ICU (家族のみ) 午後 0:30～4:30
午後 5:00～8:00



- ・ 時間外および休日の診療は救急外来にて受付しています。事前にお電話でご相談の上、お越しください。
- ・ 人間ドック、その他専門ドックのご相談、ご予約は総合健診センターで受付しています。



〒460-0001 名古屋市中区三の丸1丁目3番1号

052-201-5311 FAX 052-201-5318